

「TPP11 と公益資本主義。この二つが混在することが本当にあり得るのでしょうか？」

平成 29 年 12 月 12 日

●よしさんからの質問

いつも応援させて頂いております。先日公益資本主義についてのご説明を頂きました。瑞穂の国の資本主義。日本がこのような発展の仕方を選ぶことの重要性について理解することができました。ただ、TPP11 と公益資本主義。この二つが混在することが本当にあり得るのでしょうか？ずばっと！お教えてください。よろしくお願い致します！

●西田昌司の答え

「瑞穂の国の資本主義」とは安倍総理がおっしゃられたことです。5 年前に第 2 次安倍内閣が発足して、安倍総理がオバマ大統領と会談するためにアメリカに発つ前日、私は党の総裁室で安倍総理にお会いして TPP についての私の意見を述べました。

私は TPP については民主党政権下の野党時代から大反対していました。アメリカは TPP に加盟して自国の農産物を日本に売り付けたいという狙いがあったのだと思います。（しかし、農業に関してはアメリカよりもニュージーランドやオーストラリアの方がよほど効率良く経営をしていますし、アメリカにとっても TPP は実はそれほど旨味のある話ではなかったがゆえにトランプ大統領は TPP から脱退をしました。）

日本にとってアメリカは安全保障上の重要なパートナーであり、それゆえにアメリカからの TPP 参加の誘いを簡単には断ることもできなかったのですが、であれば TPP ではなくて別の形もあるのです。例えば、日本は

アメリカの庇護のもとから独立するために防衛費を増大して自分の国は自分で守る、と宣言をした上で、アメリカから様々な武器を輸入するのです。北朝鮮の脅威が高まる中で日本に陸上型イージスを配備するという話がありますが、そうやって日本が防衛費を増やしていけば日本の安全保障が確保されるだけでなく、アメリカの軍事産業が潤えばアメリカ人の所得も増えて Win-Win の関係を築くことができます。

以上のような話を出発前に安倍総理にお話ししたところ、安倍総理は大いに賛同された上で、「私はウォール街発の強欲な資本主義には反対だ。日本は昔から米作りを通じて皆が支え合う社会を築いてきたし、経済においても一部の人間が富を独占するのではなく皆が幸せを共有する瑞穂の国の資本主義を日本は目指すべきだ。そういった日本のやり方を世界のルールとすることで世界も幸せになるし、私はそのことをオバマ大統領に伝えてくるよ」といった内容のお話をされたので、私は大いに感銘を受けました。ところがオバマ大統領との対談後、全く別の方向となってしまったのは非常に残念です。

オバマ大統領との間でどのような話がされたのかわかりませんが、安倍総理もいろいろなことを考慮した上での判断だったのでしょうか。安倍総理が志を忘れてしまったわけでは決してないのでしょうか、政策のかじ取りをする際には TPP ならぬ TPO に応じた臨機応変さが求められますし、正しいと思うことを常にできるとは限りません。簡単には前に進まないのですが、しかし、目指す方向は強欲資本主義ではなく公益資本主義であることを忘れてはなりませんし、そういった方向での議論をこれからしっかりとしていきたいと思っています。

反訳：ウッキーさん

Copyright : 週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>